

BIBLE + MESSAGE

…主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。…わたしはあなたがたに模範を示したのです。（ヨハネ 13 章 14～15 節）

2000 年前のイスラエルにおいて、他人の足を洗うのは奴隷の役割でした。ところがキリストは、自分の弟子たちの足を洗ったのです。それは、彼らに模範を示すためでした。すなわち、「あなたがたも、わたしと同じように歩みなさい」とキリストは教えられたのです。

この世界では、下の者が上の者に仕えます。しかし、聖書の教えはそれとは逆で、上にある者が下の者を愛し、仕えるという教えなのです。長谷川保が基礎を築いた聖隷（せいらい）福祉事業団の「聖隷」という名称は、この教えから来ています。「聖なる神様の奴隷（しもべ）」となって、この世に、そして主なるキリストにお仕えしていく、という思いがそこに込められているのです。福祉という理念の根底にあるのは、他の人を愛し、他の人のために奉仕するという聖書の精神、すなわち「隣人愛」なのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

長谷川保をご存じでしょうか。結核療養所などの医療施設の設定また、日本で初めて特別養護老人ホームやホスピスを作った福祉事業家として知られています。

保は 1903 年、現在の静岡県浜松市に生まれました。彼は地元商業高校を卒業した後、上京し、勉学を重ねます。彼にはブラジルに渡ってコーヒー農園を経営するという夢があったからです。しかし、キリスト教と出会った保は、日本に留まり、日本人のために働く導きを受けるのです。

彼の働きの第一歩は 1930 年ひとりの結核患者のための施設を建てるところから始まります。当時、結核と言え「不治の病」でした。そのため、施設の周辺住民

からの反対運動が絶えず起きていたそうです。一方、保の考えに賛同する人たちもおり、彼らから多くの献金や寄付が集まっています。しかし、施設の経営は困難を極め、1939 年 12 月 25 日、ついに保は資金難のために事業継続を断念するのです。

ところがその日、不思議な出来事が起きます。昭和天皇より特別御下賜金として五千元（現在の価値でおおよそ 2000 万円）が届くのです。これによって施設は経営危機を脱し、それと同時に、長年にわたる反対運動に終止符が打たれることになったのです。

その後、保は日本初となる特別養護老人ホーム「浜松十字の園」や末期がん患者のためのホスピス



長谷川 保
(はせがわ たもつ)
1903 年～ 1994 年



結核患者のための施設
「ベテルホーム」

※ベテルとは「神の家」という意味です。

（緩和ケア病棟）を設立し、病院・福祉施設の拡充につとめる一方、学校を設立し、福祉・医療教育にも尽力していきます。さらに政治の道に歩み、福祉に関する法律の制定のために働いたのでした。キリスト教徒として生きた保は「生涯、私的財産を持たない」という理念を貫き、病院敷地内のバラック小屋に住み続けました。それだけでなく、墓を作らず、妻と共に浜松医科大学に献体することを遺言に残したのです。